

木崎中通信

新潟市立木崎中学校

令和4年度 後期学校評価

生徒会スローガン

Let's Smile!





今年度の教育目標**「自ら学び 自ら考え 生き方を求める生徒」**の達成に向け、**「今日も楽しかった」**

とすべての生徒が言える学校づくり、「学習がわかって楽しい!」「仲間との活動が楽しい!」「貢献することができて嬉しい!」と実感できる教育活動に取り組んでまいりました。

9月から1月まで、目標はどのくらい達成されたのか、成果と課題は何か、生徒・保護者・地域の方々・教職員はどのように感じているか等をまとめ、「後期学校評価」としました。よいところ、がんばっていることは取組を継続して、さらに伸ばす。足りないところ、できていないことは工夫し、根気強く取り組み、改善を図り成長を促します。

後期学校生活アンケートの結果より

「学校生活が楽しい」の項目で肯定的な回答をする生徒の割合が新潟市の平均を上回っています(木崎中97.4%,新潟市91.2%)。さらに、「地域の大人とあいさつしたり、言葉を交わしたりしています」「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。」などの地域とのかかわりの項目においても、肯定的な回答をする割合が新潟市の平均を上回りました(木崎中95.5%,新潟市81.8%)(木崎中83.8%,新潟市73.1%)。地域・保護者の皆様の温かさを感じます。そして、木崎中で力を入れてきた「学習がわかって楽しい」に関する項目で、5教科の「授業はよく分かりますか」の回答の割合(平均)が、新潟市よりも上回っています(木崎中88.6%,新潟市83.4%)。本年度は、すべての教科で新潟市を上回りました。しかし、教科によっては80%に届いていない教科もあるので次年度での改善が必要です。家庭学習における項目では、「宿題以外にも自主的に家で勉強しています」の生徒の割合が新潟市の平均を超えています(木崎中85.8%、新潟市70.9%)。一方で携帯電話などの通信機器の利用時間(YouTube やオンラインゲームなど)が、新潟市平均よりも多くなっています。今後、メディア時間をどう減らしていくのかが課題になっています。



来

目指す資質・能力を育成する授業の質的な向上

基礎	学力テスト	の合格率							
	昨年度後期	80. 7%	7	本年度前期	84. 6%	7	本年度後期	82. 2%	
学校生活アンケートの結果(肯定的評価の割合)									
(生	徒)普段の技	受業では、	友達	同士で話し	合う活動を	行っ	ている。		
	昨年度後期	92%	7	本年度前期	95%	7	本年度後期	97%	
(職	員)学習課題	題の達成に	向け	て、ファシ	リテーショ	ン、	ペア学習、食	グループワ	ーク、
	i Pad	等を取り入	れて	いる。					
	昨年度後期	80%	7	本年度前期	91%	7	本年度後期	92%	
(保護者) 木崎中学校では、教科の学習指導がしっかりと行われている。									昨年度比
	昨年度後期	98%	7	本年度前期	93%	7	本年度後期	94%	
(生	徒)宿題を記	きちんとや	って	います。					· ·
	昨年度後期		7	本年度前期	93%	\rightarrow	本年度後期	93%	
(生徒) 宿題以外にも自主的に家で勉強しています。									
	昨年度後期	80%	7	本年度前期		7	本年度後期	86%	
(保護者)木崎中学校では、家庭学習の習慣が身に付くように、宿題の点検がしっかり									
	<u>と行われ</u>	ている。							昨年度比
	昨年度後期	88%	7	本年度前期	83%	7	本年度後期	79%	Ω

成 基礎学力テストの合格率は前期から若干下がったものの,昨年度を上回りました。放課後 果 の学習会や朝学習を行ったこと,生徒が毎日の課題へ真剣に取り組んだことが成果となっ ています。

また,友達同士で話し合う活動(生徒による評価)や学習形態の工夫(職員による評価), 学習指導体制(保護者による評価)に関わる項目で高い値となっています。多様な学習形態の中で生徒同士の教え合い,学び合いが生かされたと考えられます。

第 93%の生徒が「宿題をきちんとやっています。」と回答しているのに対して、「家庭学習 の習慣が身に付くように、宿題の点検がしっかりと行われている。」と回答している保護者 が 80%を切っています。保護者にもどのような宿題が出され、点検されているのかを情報 共有する必要があります。

- 引き続き、基礎学力の定着を図るため各教科と学年部で連携して取り組んでいきます。
- 年 ・ステップアップノートの取組を見直し、5教科日替わりでプリントを配付して毎日の家 度 庭学習とします。学習する教科に偏りを出さず、まんべんなく学習できることを目指しま の す。生徒は日々やることが明確になり、保護者も生徒が課題に取り組んでいるかがわかりや 方 すくなります。
- ★ ・各職員が個人のテーマを決めて研修を進め、生徒の主体的・協働的学びを充実させるため 授業改善に取り組みます。
 - ・今年度、総合的な学習の時間の年間計画を見直し、1年生から進学を意識した学習を実施しました。学習の目的を明確にし、学習意欲の向上を目指しています。
 - (R3 1年生71% → R4 1年生86%)



の方

策

自立を促す生徒指導の推進

学校生活アンケ	ートの結果	Į (†	肯定的評価	の割合)				
(生 <u>徒)学校生活</u>	<u>舌は楽しい</u> 。							
昨年度後期	91%	7	本年度前期	93%	7	本年度後期	97%	
		・見	つけたり、	友達が落ち	込ん	でいるとき、	励ました	IJ
しています	<i>f</i> 。							昨年度比
昨年度後期	97%	7	本年度前期	95%	\rightarrow	本年度後期	95%	$\hat{\Omega}$
(生徒)先生方に	は自分の努力	りを	認め、励ま	しよくない	ے ۔	をしたときり	こは注意し	てく
れる。また	こ、悩みや相	目談	にも親身に	なって相談	に応	じてくれます	す。	
昨年度後期	97%	7	本年度前期	95%	7	本年度後期	99%	
(職員)生活アン	ノケートやや	りり	_ とり帳など:	を活用し、	教育	相談などの権	幾会を捉え	. 🔪
生徒の悩み	<u>りや相談に</u> 応	じじ	ることができ	きた。				
昨年度後期	87%	7	本年度前期	100%	7	本年度後期	93%	
(保護者)木崎中	中学校の教師	币は、	、生徒一人-	一人を大切	にし	、生徒や保証	養者に対し	て。
親身にな	<u>ょって対応し</u>	った	<u>り相談した</u>	りしている	0			
昨年度後期	90%	7	本年度前期	96%	\rightarrow	本年度後期	96%	
(保 <u>護者)木崎</u> 「	<u>中学校の生</u> 徒	ŧは.	、社会や学	交のルール	をき	ちんと守って	ている。	
昨年度後期	94%	\rightarrow	本年度前期	94%	7	本年度後期	98%	

成 多くの職員が、一人一人の生徒の努力を認め、励まし、悩みなどにも親身になって相談を **果** 聞くことや、生徒同士が友達のいいところを見つけ、励まし合っていることが、学校生活が 楽しいと思う生徒が多くなっていると考えられます。

生徒会を中心に、校則の見直しや学校生活でのルールの話し合いが行われました。生徒が 主体的に話し合い、活動することによって、全校生徒が意識して活動できていると考えられ ます。

課 「平日にメディアを1日にどのくらい利用しているか」の設問では、1時間以上の生徒は、 題 電子ゲームが38%, YouTube などが64%, テレビ, ビデオ, DVD が65%と高い傾向がみられ ます。その結果、寝不足で登校したり、体調不良で保健室に来室する生徒もいます。

- ★ ・ライフスキルトレーニングを定期的に行い、支持的風土のある集団作りを行っていきます。
- 年 ・ 行事や生徒会活動などを通して、自己有用感や共感的人間関係を高めていく機会と捉え、 度 | 主体的な活動を支援し、成就感・達成感が味わわせる活動を取り入れます。
 - ・SNS やネットゲームとの関わり方について、中1段階でしっかりとした指導を行っていきます。
 - ・生活の乱れが見られる生徒に対しての声かけと、保護者との連携を図っていきます。
 - ・学校生活アンケートに「アセス(学校環境適応感尺度)」を取り入れ、個々に必要な支援 を全職員で共有していきます。



多様な学びを保障する特別支援教育の推進

学材	を生活アンク	ートの結	果(肯定的評価	の割合)				
(保護者) 学校は、自分の子にあった支援をしている。									
	昨年度後期	91%	7	本年度前期	93%	7	本年度後期	92%	
(保	· ·護者)教師	は一人一人	を大	切にし、生行	徒や保護者	がに対	して親身にフ	なって対応	したり
\ P1		りしている							
	昨年度後期	90%	7	本年度前期	96%	\rightarrow	本年度後期	96%	
(職員)個別の支援計画を短期目標を持ちながら、計画・見直しすることができた。									
	昨年度後期	86%	7	本年度前期	71%	7	本年度後期	89%	

- 成 ・学校生活アンケートの結果から、「学校は自分の子にあった支援をしている。」と回答する果 保護者が92%、「教師は一人一人を大切にし、生徒や保護者に対して親身になって対応したり相談したりしている。」と回答する保護者は96%となり、楽しく学校生活を送っている子どもの姿に保護者が満足している結果となりました。
 - ・「個別の教育支援計画を短期目標を持ちながら、計画・見直しすることができた」の職員の回答は、前期の71%から後期は89%と改善が見られ、温かい関係性を築きながら生徒に寄り添った教育活動になっていると考えます。
 - ・小・中特別支援学級の連携で行う生徒同士の交流会では,今年度木崎コミュニティセンターでアート製作活動を行い,共同で素晴らしい作品を作ることができました。斉唱も好評でした。
- は ・ケース会議、校内支援委員会、外部講師を招いた職員研修などを適切に実施し、よりよい題 形で充実した教育活動を行えるような改善が必要だと思います。
- 来・外部講師を招いた研修を計画的に行い、特別支援教育の理解を深めます。
 - ・一人一人のニーズを明確にして全職員共通理解のもと、支援・指導を行っていきます。
 - ・保護者との連絡を密に取りながら合意形成を図りながら、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成、見直しを丁寧に行い、指導、支援を進めていきます。

方策

年

度

മ



